



片山かおるの ちょっとカエル通信

特別号2号

2017年3月1日発行

野川とはげをこわす道路はいらない!

障がいがあってもなくても
共に暮らせる町に

3/26
市議会議員
選挙

原発のない
平和な未来を
選ぼう!

おとなも子どももいっしょに育つ町にしよう 小金井市議会議員 片山かおる

市民活動の拠点となる 新庁舎と新福祉会館を!

閉鎖された福祉会館は、公民館本館の利用者と障がい当事者が出会える貴重な場所でした。定期利用団体や作業所の店などの代替施設を今すぐ確保し、中町3丁目の庁舎建設予定地に、新庁舎と新福祉会館を早急に建設すべきです。

福祉会館には公民館を併設 せっかくの機会です。これからの小金井を「こんな町にしたい」と思える、市民活動の拠点となる庁舎と福祉会館にしませんか?

今の市長の方針には、公民館本館が含まれていませんが、社会教育施設である公民館には、市民が主体のまちづくりを進める役割があります。住民参加型の福祉を、公民館本館も含む新福祉会館建設の中で実現しましょう。

どんな市庁舎が理想? 視察した愛知県犬山市や静岡県掛川市の庁舎は、市民活動のスペースが至るところにある環境に配慮した庁舎です。立川市の庁舎は入ってすぐに障がい福祉の窓口があり、作業所が運営するレストランや、市民活動に使えるスペースも設けられています。これまでの議会の研究成果を市民と共有し、早急に議論を進めるべきです。そして、市民の要望がもっとも多い図書館本館の計画策定にも、たくさんの市民参加のもとで取り組みましょう。

片山かおるの

2017 小金井まちづくりプラン

掲載できなかったプランは、片山かおるのHPでご覧になります。



子どもの権利とおとなの人權

「子どもの権利条約・条例を活かし、自分らしく暮らせる町に」

- ★ 子どもの権利を真ん中にした「子どもの貧困対策条例」と、だれもが主役の「みんなの学校」を。
- ★ 制服や給食の保護者負担を削減し、義務教育の無償化を。
- ★ 子どもに居心地のよい小規模異年齢保育を。
- ★ 食品ロスをなくすフードバンクとフードドライブで、子ども食堂や生活困窮者を支援。
- ★ 家で産んで家で看取られる地域医療と子育て支援に、助産院や助産師の力を。

足もとからの平和

「小金井から平和な世界つくりを発信」

- ★ 憲法カフェを公民館で開催。平和憲法を学び直す。
- ★ 市民主体の「小金井平和の日」や「中東和平プロジェクト」の開催を。
- ★ 学校で子どもが主体の平和教育を。日の丸・君が代の強制をなくし、教育現場に自由な空気を。
- ★ 近隣市と連携し、主催の国際交流イベントを。
- ★ 外国人相談の回数を増やし、相談体制の充実を。

多様で自由な表現を認めよう

「高齢者も子どもも暮らしやすい路地文化の町へ」

- ★ 大規模再開発はストップ。個人商店を応援し、買い物難民の出し、歩いて暮らせる町に。
- ★ 福祉と環境に配慮した市民活動の拠点となる新庁舎と、公民館本館を含む新福祉会館を庁舎建設予定地に。
- ★ 市民の居場所となれる図書館本館計画を市民参加で作成。
- ★ 空き家や空きアパートを活用して、安い賃貸住宅を提供。
- ★ 高齢者や障がい者、子どもの居場所となる寄り合い所を市内各所に。
- ★ 市民と市が出資する市民映画館をつくり、小金井を映画の町へ。

民主主義を活かす

「開かれた市政をめざす」

- ★ 対決型から提案型議会へ。市民が使える「議会基本条例」に。
- ★ 議会報告会を定例会ごとに、各地域で開催。市民参加の議会へ。
- ★ 大事な公文書はすべてアーカイブ化。情報公開された市政へ。
- ★ 「自治基本条例」を制定し、市民が主体の市政運営を。
- ★ 非常勤職員の待遇を改善。「公契約条例」による公正で男女平等な労働環境を。

きれいな川や木と土と空気のもとで暮らしたい

「放射能汚染への対策や脱原発、地球温暖化防止の取り組みを」

- ★ 野川やはげを壊す都市計画道路はつくらせない。貴重な里山自然を観光の目玉に。
- ★ 「脱原発首長会議」への参加。原発事故避難者を地域から支援。
- ★ 旧「雨デモ風デモハウス」で、省エネルギー環境先進都市に。
- ★ 放射能測定室の測定器を更新し、放射能汚染被害を防ぐ。
- ★ 地産地消のカフェを併設した資源化施設を、環境教育とにぎわいの拠点に。
- ★ ごみを出さないために、包装しない、量り売りの商店を増やす。

「生命と生存」が片山さんを震わせる

片山かおるさんとの出会いは1994年にパフォーマンスのための映像を撮影してもらったことがきっかけだった。その後、片山さんは結婚し、赤ちゃんを身ごもった。

この身ごもりから片山さんの生き方が次第に明確になっていったとわたしは思っている。

女性は社会に出てそこでジェンダーを知り、性差別を知ることが多いけれども、女性はまた、子の生命や生存を通して世界をひろげていくことが多い。何をこの子に食べさせるのかと必死に考えることから。片山さんの場合は我が子にとどまらず、「子ども」としての幸せとは何か、住みやすさとは何かを模索し、視野を広げていった。その先に市議になることがあった。そこに何も迷いはなかったのだと想像する。

そして、原発事故が起きるとすぐに動き出した。そこにも何も迷いはないのだ。

「生命と生存」が片山さんを震わせる。これら根源的な事柄にコミットメントしようとする片山かおるさんを応援せずにはられない。

イトー・ターリ (パフォーマンス・アーティスト)



応援します!

こぐれみわぞう (音楽家) 上原公子 (元国立市長) 瀬瀬あや (映画監督)
 鎌仲ひとみ (映画監督) 大熊ワタル (音楽家) 山田真 (小児科医)
 矢島床子 (母と子のサロン 矢島助産院 助産師) 満田夏花 (環境団体理事)
 黒坂圭太 (アニメーション作家/武蔵野美術大学教授) 吉岡淳 (カフェスロー代表)

政治は弱者のためにある

赤ちゃんを育てやすいまちづくりによって、子どもたちにとっても、ハンディキャップのある方にも、高齢者のみなさんにとっても、安心して過ごしやすい小金井市になるはず。人として、議員として尊敬する片山かおるさんは、こうした目線で政策提言に取り組んできました。政治は弱者のためにあります。困ったを希望に変えることができる片山さんを応援します!

井筒高雄 (元加古川市議 / 元陸自レンジャー)



こんな小金井にしたい！ 市民からの声

保育

待機児童問題を解消するために、駅前のビルにどんどん保育所が開設されています。武蔵野公園や小金井公園などの自然豊かな環境で、小さな子から大きな子まで異年齢でダイナミックな保育ができるといいと思います。

(原島康晴 中町 小中学生の親)

道路と環境

「はけ」の名で親しまれる国分寺崖線は、都市近郊にしろうじてのこされた貴重な自然遺産です。その遺産と周辺の住環境が、2本の都市計画道路によって壊されようとしています。

(西巻元 東町の道路計画地付近に在住)

昨年、「計画の見直し・変更を求める陳情書」が賛成多数で採択されました。市議会と市民が一体となって、半世紀以上も前に立案され、すでに時代錯誤になった計画案の見直しを都に迫っていきましょう。野川とはけの自然保全の歴史を市から発信すること、市内全体の環境保全にもつながる、市の意思を示す条例や計画策定が必要です。

駅前再開発

武蔵小金井駅南口第2地区の再開発がとうとう始まった。駅への動線も変わってくるだろう。今からでも、できる限りやさしい駅前になるよう市民を交えて考えてほしい。商店街は全市レベルでの配置を視野に入れて、そして木陰生む緑のある駅前に！

(関根幸恵 駅近くの前原町に在住)

現在の武蔵小金井駅前、高いビルに囲まれて風が強く、夏は陽の照り返しも厳しく、人がくつろげない場所になっています。再開発は、市が多額の補助金を支出する事業です。高層ビルによる環境への影響を調査し、個人商店も共存でき、市民が納得できる事業計画を市の主導で立てるべきです。

教育

学校事務を共同化し、給食費は値上げする一方で、道徳の教科化やプログラミングの必修化が決まり、ICT（情報通信技術）機器設備導入の予算も提案されています。教員は目の前の子どもにきちんと向き合っているのか疑問です。子どもが豊かな感性を育むために、自由でゆとりある教育と環境を求めます。

(沢口綱枝 前原町 小中学生の親)

若者たちは考える 18歳選挙権がはじまって

18歳選挙権が施行され、若い世代の声が目立っています。子どもの権利条例がある町で育った子どもたちは、自分の頭で考え自分の言葉で意見を言えるおとなになっているのでしょうか。

21歳 政治の話になると、「よく分からないから…」とって逃げる友だちが多い。政治の話に専門的な知識がいるのはそりゃそうなんだけど、だからといって自分の意見を話すことを恐れないでほしい。分からなくても、分からないなりに話せるはず。政治に興味のない人でも気軽に参加できるような勉強会が増えるといいな、と思います。

(庄司はづき 東町 大学生)

20歳 留学時代、「発達した国に欠かせないもの」というテーマで議論する授業があり、アラブ首長国連邦の人とベアを組んだ。激しい議論になったのは軍隊の是非について。どちらも折れることはなかったが、同世代と政治系の熱い議論などしたことのない私にとっては、刺激的な留学生活のハイライトであった。平和だからこそ、いろんな国の人と議論することができるのだと実感した。

(Yくん 前原町 フリーター)

18歳 将来が不安。少子高齢化で社会保険料があがるだろう、と高校の授業で先生が話していた。ニュースを見ても正社員の雇用が少なくなっている。将来、ひとり暮らししたいと考えても、奨学金の返済や正社員になれなくて給料が少なかったら、暮らしていけないのでは。いい未来が想像できない。不安が先にくる。

(Mくん 前原町 高校生)

ごみと暮らし

市民が出すごみの量が、多摩地域で一番少ない小金井市。今は可燃ごみの処理を他市にお願いしている立場なので市民も努力していますが、日野市に焼却施設ができて減量を続けられるのでしょうか？

(井上真紀子 前原町 ごみ・環境ビジョン21)

かつては可燃ごみとして出していた雑紙、落ち葉や雑草、カーボン紙や紙コップなどの難再生古紙も、今は分別して「資源」になるので、その分可燃ごみは少なくなりました。その代わり資源として収集・運搬・保管などする費用が他市に比べてかなり多くかかっています。家庭にごみになるものを持ち込まない暮らし方（売り方、買い方）ができる、環境先進市を目指して知恵を出し合ひましょう。

福島原発事故はまだ終わっていない ～ 分断ではなく連帯を～

東京都民が使う東京電力の電気をつくっていた「福島第一原発」の事故から6年。放射能汚染対策と廃炉作業、そして事故の原因と責任を追及し、避難の権利を保障することが、原発再稼働を止めることにつながります。3月で避難者への住宅支援が打ち切られる問題に対し「避難の協同センター」が設立され、各地の自治体議員が協力して避難者支援と政府や都との交渉を行っています。小金井市議会から何度も提出した避難者支援の意見書が、大きな効果を発揮しています。私たちひとりひとりが連帯することで、きっと、原発のない未来を選びとることができるでしょう。

多くのひとびとが勇気づけられている

国の原子力緊急事態宣言はいまだに解除されず、放射性物質が大気と海洋に放出され続けています。なのに、年間20ミリシーベルトの放射線量の地域への帰還が進められ、区域外避難者の住宅無償提供が打ち切られます。

いのちと生きる権利を守るため、被災者に寄り添い、わがことのように支援してくださっている片山かおるさん。多くのひとびとが勇気づけられています。

(佐藤和良 福島県いわき市議)

応援しています！



地方自治になくってはならない人

福島原発事故以来、さまざまな場面で福島の被害者のために力を尽くしてくださり、本当にありがとうございます。

片山さんの具体的で、粘り強い活動にとっても助けられました。

困った人のために、正しいことのために、いつもできうる最善を尽くそうとする片山さんは、地方自治になくってはならない人だと思います。

情に厚く、力強く、いつも真剣そのものの片山さん、小金井市民のためにさらに活躍していただきたいと心から願っています。

(武藤類子 福島原発告訴団 団長)

応援しています！



ともに「人間の復興」を

福島原発事故以来、避難者・被害者として、いのちと権利を守り「人間の復興」を求める声をあげてきました。

片山さんはいつも力強くしなやかに寄り添ってきてくださいました。

原発の電力の消費地だったと同時に広義の被災地でもある小金井から、「自分事」として取り組み続けてくださることを期待いたします。

(大賀あや子 小金井市前原町出身 福島県大熊町から新潟へ避難)

応援しています！

